

活用効果評価結果

公開版

令和元年度

近畿地方整備局 新技術活用評価会議

NEITS 情報	開発目標	耐久性の向上、地球環境への影響抑制、品質の向上																							
	新技術登録番号	KK-110056-VR				区分	工法	有用な技術の位置づけ	活用促進技術																
	分類	橋梁上部工 - 橋梁塗装工(新設)																							
	新技術名	アースコート防錆-塗装システム																							
	比較する従来技術(従来工法)	鋼道路橋塗装・防食便覧(一般外面の塗替えRc-I)																							
	新技術の概要及び特徴	鋼構造物の防錆(防食)-塗装工程についてシステム化した技術である。表面処理(EARTH COAT防錆前処理剤)と錆塗装(EARTH COAT防錆塗料)とを併用することで鋼材面を安定化させ長期間に渡って防錆する。橋梁長寿命化修繕塗装等で素地調整を簡略化し、コスト削減及び環境配慮を図れる工法である。																							
活用効果評価	所見	参考の評価基準に基づき「従来技術より優れる」と位置づけされる。 ・1種ケレンから3種ケレンになり、ケレン作業が軽微になるため施工性が向上する。 ・新技術ではプラスト処理の必要がなく騒音・粉塵の発生が軽減できる。																							
	次回以降の評価に対する視点と評価の必要性	継続調査を行い、耐久性について確認し再評価を実施する。よって、情報種別記号「-VR」とする。															項目の平均(点)と従来技術(従来工法)(点)の比較 								
	留意事項	-																							
	活用効果調査表における改良点及び要望	-																							
参考	対象工事	1	橋梁補修工事	(従来技術)	Rc-1塗装系(1種ケレン)	施工者希望型	H26																		
		2	橋梁補修工事	(従来技術)	素地調整を1種ケレン	施工者希望型	H28																		
		3	橋梁補修工事	(従来技術)	鋼道路橋塗装・防食便覧(一般外面の塗替えRc-I)	発注者指定型	H28																		
		4	橋梁補修工事	(従来技術)	鋼道路橋塗装・防食便覧(一般外面の塗替えRc-I)	発注者指定型	H28																		
		5	補修工事	(従来技術)	塗り替え塗装系(一般外面の塗り替えRc-I)	施工者希望型	H29																		
		6	橋梁補修工事	(従来技術)	防食方法(鋼道路橋塗装・防食便覧Rc-1)	施工者希望型	H30																		
		7	道路修繕工事	(従来技術)	一般重防錆防食塗装システム(一般外面の塗り替えRc-II)	発注者指定型	H23																		
		8	道路修繕工事	(従来技術)	一般重防錆防食塗装システム(一般外面の塗り替えRc-II)	施工者希望型	H26																		
		9	橋梁補修工事	(従来技術)	エポガードシステム	施工者希望型	H28																		
活用効果調査結果	ケース番号及び年度	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	項目の平均(点)	従来技術(従来工法)(点)		
	項目	H26	H28	H28	H28	H29	H30	H23	H26	H28															
	施工時評価	経済性	B	B	D	B	A	B	-	-	-												B	C	
		工程	A	B	C	B	B	B	-	-	-													B	C
		品質・出来形	B	B	B	B	B	B	-	-	-													B	C
		安全性	B	C	C	B	A	C	-	-	-													B	C
		施工性	A	C	B	B	B	B	-	-	-													B	C
		環境	A	C	C	B	B	B	-	-	-													B	C
	その他																								
	総合評価点	B	B	C	B	B	B	-	-	-													B	C	
今後、当該技術を活用出来る工事に活用したいか	今後も是非活用したい			活用を検討したい			場合によっては活用することもある			技術の改良を強く望む			各項目における判定												
	50%			33%			8%			0%			A 従来技術より極めて優れる B 従来技術より優れる C 従来技術と同等 D 従来技術より劣る												
追跡調査の必要性																									
追跡調査																									